

政治改革を図った聖徳太子(飛鳥時代の皇族・政治家、17条憲法制定)ゆかりの地で活動する、太子町革新懇が第18回総会を開催

結成して18年、昨年11月に総会を開催。「憲法を守る太子町の会」を支え、二上山麓など9の日行動を重ねています。教育現場に足を運び、懇談会、「日の丸・君が代」申し入れや宣伝、3000万署名運動、「とんづる峰地下壕」見学などをはじめ、15区市民連合の運動に参加し、1.4万人の町で革新統一の旗を掲げています。総会には20人が参加、消費税問題で学習会をしながら安倍政権・維新政治を終わらせるための意見を交換しあいました。

原発はビジネスとしても成り立たない

寝屋川ゲンパツいややん行動/今年こそ原発ゼロをめざそうと、新調の看板で宣伝行動



1月11日金曜日夕方、京阪電車寝屋川市駅東側で行われ6名が参加しました。2012年のいややん行動スタートから7年間使ってきた看板がボロボロになったのを見かねた、参加者の娘さんが手作り新調してプレゼントされました。

福島第一原発からもうすぐ8年。「安倍首相が先導した英国をはじめとする原発輸出はことごとく暗礁に乗り上げ、経団連会長も限界と発言、もはや原発はビジネスとしても成り立たなくなっています」「小泉純一郎元首相は原発が安全・低コスト・クリーンという

のはウソ、だまされていた自分が悔しく腹立たしいと発言しています」など新聞記事を示しながら、原発は廃炉に電気は自然エネルギーに転換をと訴えました。ビラを受け取った女性が「小泉さんの話を聞きに行きました」と話してくれました。

大阪革新懇代表世話人会で今年度方針上の意見交換 維新政治終わらせる対話重視の「前半戦取り組み」や「賛同団体と野党共闘」で意見

1月12日に第11回代表世話人会を開催しました。安倍改憲の危険な動きをはじめや、ヨーロッパなど貧困と格差を背景に分断社会が広がっているが、大阪でも維新がカジノ万博にうつつを抜かしている中で、大阪の「経済と暮らし」問題をクローズアップさせながら、アベノミクス破綻(原発から軍事産業戦略と成長戦略)とあわせて、くらしや労働の要求を前面に対話活動を訴えていこうなどの意見が出されました。また、統一地方選での府会議員選情勢と取り組みの重視では、報告として、大阪での市民連合は21団体が活動を行い、市民と野党の共闘をすすめながら、3000万署名・沖縄問題・森友問題・原発・消費税など工夫しながら市民とつながる地道な運動を重ねているが、豊中では共産党候補当選のために有志が「勝手連」をつくり、1000人規模の集会を構えていることも報告がありました。地域を主戦場とした展開に賛同団体もかわりを強めること、「野党共闘」に対する賛同団体の選挙方針議論を期待しながら、市民との対話(消費税・カジノ万博に反対世論が強まっている)を基本にした選挙戦をたたかおうなどの意見が出されました。

大阪革新懇総会は2月23日(土曜日)午後1時30分、大阪グリーン会館で開催